

キリスト教保育

卷頭言
幼い時に
主を知ることの意味
山下久美

小論
子どもと環境
(2)
木村歩美

年主題
共に喜んで
～すべての歩みの中～

香きいて
横山基生



2022 JAN

1

☆ ☆ プレゼント 花 ⚪ ⚪ フラワーバスケット

知恵は宝石よりも尊く、あなたの望む何物も、これと比べるに足らない。

口語訳聖書・箴言3章15

箴言は、旧約聖書の中でも、一味違った書物です。漢和辞典を引いてみたところ、「教え諭すことば」とありました。そのように、これは、知恵の教師が、人々、ことに若い人や子どもに教える「知恵」の言葉を集めた書物です。試しに数え上げてみたら、この書物の中に「知恵」という言葉が103回、「知識」という言葉が39回出てきました。まさに「知恵と知識の書」であると言えましょう。

読んでいくと、わずか2行の言葉ですが、「なるほど」と思わせる言葉、思わず吹き出したくなるような面白い言葉、また深く印象に残る言葉が、次々に出てきます。その中心は＜知恵＞であり、その素晴らしさをほめたたえる書物なのです。

この＜知恵＞は、主を恐れる人に与えられ、そのような人に幸いをもたらす「命の木」である、「宝石よりも尊い」ものと思い、これを心から愛するように樊めています。

今の世の中や教育を見ていると、この箴言の＜知恵＞の精神が大切にされたら、どんなに良いことだろうか、と思わされます。今の世の中は、ものを覚えることに価値を置き過ぎるよう思えてなりません。それが、教育を誤らせているのではないかと気になるのです。

子どもは、身体いっぱいを使って未知のものを「知ろう」しています。何かを「知る」という時、頭で覚えるということを否定するわけにはいきませんが、手と身体と心で「知る」ことの方が、もっと確かです。子どもたちは、毎日の遊びや暮らしの中で、立派な「学習」をしているわけです。失敗や失望も含めて、そして喜びや充実感を味わいながら、色々な事を学んでいます。全人格的に「知る」営みをしているのです。このような営みを＜知恵＞と呼んでもよいと思います。このようにして得られた＜知恵＞は、子どもたちのこれから的人生に、大きな力となることでしょう。そして、これを基礎に、それこそいくらでも、いわゆる＜知恵＞を積み重ねることができるでしょう。

＜知恵＞こそ、子どもたちの「宝石」です。これを守り、育むことが、私たち保育者の『つとめ』であり、『喜び』なのです。

(岡本不二夫・執筆 当時・日本キリスト教団平塚教会牧師 附属平塚二葉幼稚園園長)

1987年『キリスト教保育』誌1月号より

キリスト教保育

第634号 1月号



年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～



幼子とともにキリストへ
目次

（巻頭言）

幼い時に主を知ることの意味 山下久美

子どもの運動能力と遊び（2） 杉原隆

（小論） 子どもと環境（2） 木村歩美

（論説） 香きいて 横山基生

香

聖書にきく・お詫 后宮敬爾

聖書にきく・お詫 後宮敬爾

【カリキュラム】

1月 月のねがい表

心にとめて 高梨美紀

0・1・2歳児 サムエル信愛こともの園

実践からの学び 大久保めぐみ

子どもと賛美するための

心にとめて 小出馨

3・4・5歳児 塩尻めぐみ幼稚園

実践からの学び 加藤真央

44 36 34 33 32 26 24 23 20 19 14 6 4 3 2

図書紹介 菅原陽子 押川沢江

（連載）保育する人々への

12のエール 石丸昌彦

（連載）音楽って、すごい！

楽器って、すてき！ 桃原和子

礼拝のお話 茜田とも子

目福 口福 耳福 岩下佳代

風 望月麻生／編集子 白井真名子

連盟だより

表紙絵
カット

田中横子

長野祥三 長繩えいこ

中歎治子 松成真理子

金井ユリ

64 63 62 51 48 46 45

